

めぐみイエス・キリスト教会

2020年7月19日(日)第三主日礼拝
週報「通算第515号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年7月19日 第三主日礼拝 午前10時
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌248「人生の海の嵐に」 p. 382

【交読文】 No.57コリント人への手紙Ⅰ第13章 p. 925

【賛美Ⅱ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.6「イスラエルがエジプトから」

【聖書朗読】 使徒の働き3章6節～10節(2017新約p. 237上段)

【礼拝説教】 《立ち上がり、歩きなさい》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌162「ハレルヤ・ハレルヤ」 p. 232

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所「使徒の働き」3章6節～10節

3:6 すると、ペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

3:7 そして彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、

3:8 躍り上がって立ち、歩き出した。そして、歩いたり飛び跳ねたりしながら、神を賛美しつつ二人と一緒に宮に入って行った。

3:9 人々はみな、彼が歩きながら神を賛美しているのを見た。

3:10 そしてそれが、宮の美しい門の所で施しを求めて座っていた人だと分かったら、彼の身に起こったことに、ものも言えないほど驚いた。

●ポイント1.「金銀は私にはない。しかし私にあるもの」とは？

※ヨハネの福音書14章12節～14節「主イエスのみ言葉」(新約p.214上)

14:12「まことに、まことに、あなたがたに言います。私を信じる者は、私が行なうわざを行ない、さらに大きなわざを行ないます。私が父のもとに行くからです。

14:13 また私は、あなたがたが私の名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。

14:14 あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私がそれをしてあげます。」

●ポイント2.「中風の人はいやし」とは？

※マルコの福音書2章1節～12節「カペナウムの家にて」(新約p.67下段)

●ポイント3.「取りなしの祈りの重要性」とは？

※ヤコブの手紙5章13節～18節「主の弟ヤコブの勧め」(新約p.464上段)

5:13 あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。

5:14 あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。

5:15 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

5:16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くと大きな力があります。

5:17 エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。

5:18 それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を实らせました。

◎先週のメッセージの概要【美しい門において】

《ペンテコステの日に、ペテロのメッセージによって、3,000人の兄弟が救われ、教会に加えられました。しかし、このような多人数が一同に集まる建物はありませんので、使徒たちは、彼らを神殿に集めたのです。

ユダヤ人は、朝9時、12時、そして午後3時の3回、宮で祈りを捧げることが一般的です。ペテロとヨハネは、午後3時に宮に上って行きました。それは、集まっている兄弟たちを教え導き、また祈りを指導する為です。

さて、なぜこの二人が上ったのでしょうか。それはかつて主イエスが12使徒を6チームに分けた組み分けが、そのまま保たれていたからです。

ペテロとヨハネは「異邦人の庭」にやって来ます。異邦人は、そこまでしか入れません。その次にある庭が婦人の庭となります。婦人はそこまで入れます。「美しい門」とは、ヘロデの建設したエルサレム神殿の東側の「異邦人の庭」から、内側の「婦人の庭」に通じている門のことです。

そこに「生まれつき足のきかない人」が運ばれて来ました。施しを受ける為にです。おそらく数人によって、担架のようなものに乗せられ、運ばれて来たと思われれます。この時、ペテロとヨハネは、屋根が剥がされ中風の人が吊り降ろされて来た場面を思い起こしたのではないのでしょうか。

その人は、ペテロとヨハネを見て施しを求めました。

「罪人の私を哀れんで下さい。」「私たちを見なさい」

彼は何かもらえると期待して、二人に目を注ぎます。するとペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私に有るものをあげよう。」と言うのです。

ペンテコステ以後、使徒たちを通して、著しいしるしや奇跡が行なわれていました。それは彼らが、主の教えをしっかりと握っていたからです。「まことに、まことに、あなたがたに言います。私を信じる者は、私が行なうわざを行ない、さらに大きなわざを行ないます。」いやしは全人格に及ぶのです。「ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり歩きなさい。」》

◎お知らせ

※次回「第四主日礼拝」は、7月26日(日)教会にて行ないます。しばらくの間、夜の第二礼拝はお休みします。また「聖書の学びと祈り会」も、しばらくの間、各家庭にて分かれて、行なうことに変更となっています。